

国語科学習指導略案

6年3組 31名 指導者 星原貴光

本授業では、以下の検証を行うものである。

思考スキルを駆使した問題解決的な授業展開と小集団による協同的な「学び合い」の場の設定は、子どもの思考力・判断力・表現力を高める取組として有効であったか。

1 単元 町のよさを伝えるパンフレットを作ろう「ようこそ、わたしたちの町へ」

2 指導計画（総時数12時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
課題をつかむ	1 パンフレットについて知っていることや作った経験などについて発表し合う。	1
	2 複数のパンフレットを見比べ、その特徴やよさを比較しながら「楽しそう」、「行きたい」と思えるパンフレットの秘密について考える。	
	3 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 町のよさをいきいきと分かりやすく伝えるパンフレットを作ろう。 【関：パンフレット作りに興味をもち、意欲的に学習しようとしている。】	1
情報をもとに考える	4 取り上げたい題材別に小集団を編成し、どんなパンフレットを作りたいか編集会議を行い、編集の方針や分担について話し合う。	1
	5 パンフレットのモデルを読み、観点に沿って書き方を比較・分類する。 パンフレットを比較する際には、「相手・目的」、「題材」、「見出し」、「レイアウト」、「図・写真」の5観点を示し、それぞれのパンフレットの書き方のよさを見付けさせていく。	1
	6 取り上げたい話題について取材する。	2
	7 見出しや書体、コーナーの分量などを工夫しながら下書きをする。 分かりやすい記事と分かりにくい記事とを比較して読ませることで、形式や内容を工夫して書くことの大切さを実感できるようにする。	2
	8 図や写真を効果的に用いたり、評価語彙を加えたりしながら推敲・清書する。 既製のパンフレットを参考にしながら、色使いや書体、評価語彙の効果的な使い方など、分かりやすくなるよう工夫して書かせる。	3 (本時)
	【書：引用のルールを守り、調べたことを簡潔にまとめて説明する文章を書いている。】	
	【書：相手や目的に応じて、写真や図、評価語彙などを適切に用いるなどして、紙面をいきいきと分かりやすくまとめている。】	
	9 仕上がったパンフレットを友達と読み合い、感想を交流する。 完成したパンフレットは印刷・配布し、実の場で学習を生かしていく。	1
【書：描写と説明の両面から友達のパンフレットを読み、感想を伝えている。】		

3 本時（9 / 12）

(1) 目標

パンフレットの様式の特徴を理解し、自分が調べたことについて、相手にいきいきと分かりやすく伝わるよう描写的、説明的に工夫して書くことができるようにする。

(2) 評価規準

書体の工夫や写真・図の使い方、見出しの付け方、評価語彙の使い方など、見付けた工夫を生かして、紙面をいきいきと分かりやすくまとめている。 【書く能力】

(3) 指導に当たって

本時では、「子どもと進める授業」によって、子どもの「やってみよう」の思いを伸ばすとともに、コンパクトな導入によって子どもが主体的に学習できる時間を十分確保していきたい。また、授業の展開部では、小集団における協同的な「学び合い」の場を設定することで、子どもの思考力・判断力・表現力をより高めていけるよう工夫する。特に、問題解決的な学習場面においては、思考スキルを駆使し、それぞれの表現について互いに感想・助言を伝え合うことで、自分の考えや友達の考えが生かされるよさを実感させ、「書くこと」に対する自信へとつないでいきたい。

過程	時間	主な学習活動と指導の手立て・評価	
つかむ 見通す	7	<p>1 司会団が、前時の振り返りをする。</p> <p>2 司会団が、めあてや本時の学習の流れ、学習方法を確認する。</p> <p>手に取って読みたくなるパンフレットにするためには、どのように書けばよいか。</p> <p>いきいきと分かりやすく伝えるためには、どのように書けばよいのだろう。</p> <p>3 教師が、学習の流れと本時の学習内容のポイントについて説明する。</p> <p><学習の流れ></p> <p>(1) 既製のパンフレットを分析的に読む。</p> <p>(2) 表現の工夫をこつとしてまとめる。</p> <p>(3) こつを生かして、エラーモデルをいきいきと分かりやすく書き換える。</p>	<p>子どもによる進行によって導入をコンパクトにまとめ、活動時間の確保や主体的な雰囲気づくりを図っていく。</p> <p>「手に取って読みたくなる」という言葉の意味から、パンフレットを作るには、相手・目的意識を明確にもち、形式と内容の両面から表現の工夫をしていく必要があることに気付かせていきたい。</p>
調べる	30	<p>4 小集団における協同的な「学び合い」によって、パンフレットの効果的な書き方を考える。</p> <p>(1) 既製のパンフレットから、いきいきと分かりやすく書くための表現の工夫を見付ける。(一人で：5分)</p> <p>(2) 見付けた表現の工夫をグループで分類・整理する。(グループで：7分)</p> <p><分類・整理の観点></p> <p>① 見出しの付け方</p> <p>② 写真・図の使い方</p> <p>③ 書体の工夫の仕方</p> <p>④ 紙面構成の仕方</p> <p>⑤ 評価語彙の使い方</p> <p>(3) グループで話し合ったことを全体発表し、表現の工夫を「名人のこつ」としてまとめる。(全体で：8分)</p> <p>5 「名人のこつ」を生かして、エラーモデルをいきいきと分かりやすく書き換え、発表し合う。</p> <p>見出しを効果的な言葉で短くまとめることで、いきいきとした表現になるね。</p> <p>6 教師が本時の学習について補説する。</p> <p>・説明には、報告や意見、案内や宣伝、紹介や推薦など、多くの様式がある。</p> <p>・ランキングやナビゲート式で説明するとより分かりやすく伝えられる。</p>	<p>子どもが主体的に表現の工夫を見付け、自分たちで学習を進めていけるよう身近な既製のパンフレットを複数用意し活用させる。</p> <p>見付けた工夫を自ら分類・整理し、「名人のこつ」としてまとめさせることで、知識の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を高め、生きて働く言葉の力に付けさせていきたい。</p> <p>※ 書体の工夫や写真・図の使い方、見出しの付け方、評価語彙の使い方など、見付けた工夫を生かして、紙面をいきいきと分かりやすくまとめている。 [記述内容の分析]</p> <p>見付けた工夫を生かして書いている子どもには、なぜその工夫を取り入れたのか、表現効果の観点から理由説明ができるよう発表準備をさせておく。</p> <p>見付けた工夫を生かして書けていない子どもには、ポイントシートを配って、いきいきと分かりやすく書く観点を与える。</p>
まとめる・振り返る	8	<p>7 本時の学習をまとめる。</p> <p>読み手の目と心を引き付けられるよういきいきと分かりやすく書けばよい。</p> <p>8 本時の学習を振り返る。</p> <p>・次の時間では、表現を生かして、一人でパンフレットを書けるように頑張ろう。</p>	<p>司会団への称賛や、関わり合いによって学習の質を高めることができた喜びを実感させ、次時の学習への意欲付けを図る。</p>